

【準決勝】

習志野 vs 東京学館

習志野は1-4-4-2の中盤ダイヤモンド型、東京学館は1-4-4-2システム。関東大会出場を懸けた一戦は、前半は立ち上がりからお互いにリスクを負わずにロングボールを活用し、セカンドボールを拾い合う展開が続いていく。東京学館は徹底してDFライン背後にボールを送り、相手陣地で得たセットプレーからゴールに迫りたい。対する習志野も縦に速い攻撃とセカンドボールの回収からサイドに展開し、クロス攻撃やタッチライン際で得たMF⑭湯浅のロングスローから得点を目指したい。東京学館はDF③木村を中心とした空中戦の強さと、ボールを失った後の素早いプレスを武器に徐々にペースを握る。29分、東京学館は左サイドで得たFKからファーで折り返したボールに頭で合わせるも惜しくも枠外へ。35分、習志野も左サイドでボールを持ったMF⑤三邑がカットインからミドルシュートを放つがゴールには繋がらない。

後半、東京学館は一貫した縦に速い攻撃と球際の強さで相手に自由を与えない。対する習志野は52分と65分に計4枚の選手交代から流れを変えようと試みる。交代出場したMF⑮奥村とMF⑦吉澤を中心にボールを握り、FW⑩勝野が前線でボールを収めることで徐々に攻撃のリズムを作る。76分、習志野は中盤でセカンドボールを回収し右サイドに展開、クロスにFW⑩勝野が右足ダイレクトでシュートを放つも枠を捉えきれない。東京学館も74分のMF⑨宮田のPA内でのドリブル突破や77分には右サイドからのクロスにMF⑩黒澤がヘディングシュートで好機を迎えるも、スコアレスのまま延長戦へ。

延長前半の84分、習志野はロングスローの流れから中盤でルーズボールを拾い右サイドに展開、DF⑥岡田が蹴ったファーサイドへのクロスにDF④高山がヘディングでゴール前に折り返し、FW⑩勝野がゴール前で押し込み先制。東京学館はアグレッシブなプレッシングと延長開始から交代出場したFW⑦木内のロングスローを中心に追いつこうとするも、習志野が最後まで粘り強く対応しそのまま試合終了。強度の高い試合を勝ち切った習志野が関東大会出場を決めた。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤 研人

日体大柏 vs 検見川

日体大柏は1-4-4-2システムで両サイドバックや2ボランチの立ち位置を変化させながら最終ラインから丁寧に攻撃を組み立てようとする。対する検見川も1-4-4-2システムで3ラインをコンパクトに保ち統率のとれた守備から2トップを活かしたカウンターをベースに試合が展開された。

前半7分、検見川MF⑦杉崎の左足でのインスイングのCKをFW⑧有吉が頭で合わせ、先制点。その後も日体大柏がボールを保持し、ゴールに迫っていく展開が続いていた。18分、検見川はミドルブロックから日体大柏のパスワークの乱れたところを逃さずに奪い、素早く左サイドの⑦杉崎に展開、ペナルティエリア内でスルーパスを受けたFW⑨盛合が左足で打ったシュートがDFにあたり日体大柏GKの頭上を越え、2点目を挙げた。日体大柏は前線のFW⑨齊藤とFW⑪吉村が起点となりながら、FW⑩沼田、MF⑫小菅のコンビネーションでチャンスをつくる。31分にはペナルティエリア内でボールを受けた⑨齊藤が素早い反転からの至近距離のシュートを打ったが検見川GK①菅原が見事な反応で防いだ。日体大柏の攻撃は続き、前半アディショナルタイムにMF⑦島崎のCKにファーサイドでDF⑬後藤が頭で合わせ、1点を返し前半を終えた。

後半に入っても、丁寧にボールを動かしながらチャンスをつくり続ける日体大柏と2トップの献身的なプレッシングと中盤の連動、最終ラインでの素早い危険察知でボールを奪いカウンターで追加点を狙おうとする検見川という展開は変わらない。

日体大柏は53分、FW⑬吉川、FW⑭三橋、61分にはFW⑯小泉、MF⑰ザマーニ龍生といった前線のフレッシュな選手を投入し攻め続けた。対する検見川は数人の選手が足を攣りながらも全体の距離感をコントロールしながら粘り強く、グループでゴールを守り続けた。準々決勝同様、前半に奪った2点を最後まで守り続けた検見川が勝利を収め、関東大会初出場を決めた。

東京学館浦安高校 大木 壘

【決勝】

習志野 vs 検見川

習志野は1-4-3-1-2、検見川は1-4-4-2システムでキックオフ。序盤はお互いにリスクを負わずにロングボールを活用し、セカンドボールを拾い合う展開となる。

検見川は、拾ったボールをサイドに動かし、DF③北村のフィードとFW⑨盛合のポストプレーを起点としながら、FW⑩清宮、MF⑬中田、MF⑦杉崎らの背後への抜け出しと、失った後の奪い返しでペースを掴みたい。対する習志野はミドルブロックからサイドに誘導してプレスのスイッチを入れる。奪ったボールはシンプルに前線へ供給し、セカンドボール回収からMF⑤三邑を中心に、個人技を活かした中央突破、DF⑥岡田の攻撃参加によるサイド攻撃、MF⑭湯浅のロングスローでゴールに迫りたい。18分、検見川はロングスローのルーズボールを拾った⑨盛合がPA内へのドリブル突破からシュートを打つが、ここはGKがキャッチ。対する習志野は35分、MF⑭湯浅のロングスローからPA外にこぼれたボールをDF⑥岡田がダイレクトで右足一閃、ミドルシュートをゴール左上に突き刺し先制。習志野が1点リードして前半を折り返す。

後半、検見川のGKを含めたビルドアップに対し、習志野は2トップのFW⑨酒井とFW⑫小川、⑤三邑を中心に、前線からのハイプレスにより相手陣地でアグレッシブにボールを奪いにいく展開となる。対する検見川はGK、DFラインから1つ飛ばしのパスを入れながら前向きサポートをつくり、ボールを保持しながら前進を試みるが、相手のプレス強度が上回り徐々に習志野がカウンターでゴールに迫る回数を増やす。それでも検見川は中盤の選手を交代しながら、ライン間で縦パスを引き出し、相手のプレスを回避しながら前進を目指す。検見川は59分、MF⑪石野の積極的なドリブル突破からPA角付近でFKを獲得。MF⑭辻が直接ゴールを狙うもバーに当たり、こぼれ球を連続シュートするも習志野が体を張って守り切る。その後も検見川は、習志野のDF③安田、DF④高山を中心とした強固なDFラインを崩せず、決定機には至らない。そして時間の経過とともに攻守の切り替えが激しいオープンな展開となる。終了間際、検見川は空中戦に強いDF⑫林を前線に上げることで前に人を増やしロングボールからゴールを目指す。習志野は③安田と④高山を中心にDF陣がしっかりと弾き返し、逆にカウンターから相手陣地での時間を増やし、そのまま試合終了。両チーム最後まで運動量を落とさず、インテンシティの高い好ゲームとなった決勝戦は習志野に軍配が上がった。